

シンポジウム | 特別講演

多職種連携シンポジウム

地域包括ケアシステムに関わるための第一歩 ～成功と失敗に学ぶ多職種連携～

座長:高野 直久(日本歯科医師会 常務理事)、渡部 芳彦(東北福祉大学総合マネジメント学部)

Sat. Jun 23, 2018 9:50 AM - 12:00 PM 第1会場 (8F 大ホール)

【高野 直久先生略歴】

1982年 東京歯科大学卒業

1986年 東京歯科大学大学院修了(歯学博士)

1986年 東京歯科大学口腔外科学第2講座助手

1992年 高野歯科医院院長

1992年 東京歯科大学口腔外科学第2講座非常勤講師(現在:顎顔面口腔外科学講座)

2005年 (社)東京都歯科医師会理事, (社)東京都学校歯科医会理事

2016年 社会歯科学会理事, 日本顎関節学会監事

2016年 (公社)日本歯科医師会常務理事, (公財)8020推進財団常務理事

2017年 (公社)日本歯科医師会常務理事, (公財)8020推進財団専務理事

日本口腔外科学会専門医, 日本顎関節学会指導医・専門医, 日本口腔顔面痛学会指導医, 日本公衆衛生学会専門家, 労働衛生コンサルタント, 介護支援専門員

【渡部 芳彦先生略歴】

1996年 東北大学歯学部卒業

2000年 東北大学大学院歯学研究科修了(高齢者歯科学)

2000年 東北福祉大学感性福祉研究所PD研究員

2002年 東北福祉大学嘱託助手

2004年 東北福祉大学講師

2004～2005年 トゥルク大学歯学部(フィンランド)客員研究員

2009年 東北福祉大学准教授

2018年 東北福祉大学教授

日本老年歯科医学会 認定医・専門医・指導医

日本老年歯科医学会 多職種連携委員・在宅歯科診療等検討委員・代議員

【抄録】

これからも歯科医療を担い続ける者としては、従来の医療モデルから脱却し、対象となる人々の生活や生き方に関わる専門職チームの中で、その在り方を考えてみる必要がある。それこそが地域包括ケアシステムの構築であり、地域ごとに異なるリソース(社会資源)を把握し、多職種とのコミュニケーションの積み重ねにより実現され得る。

本シンポジウムでは、まず基調講演により平成30年度の医療・介護保険同時改定の内容から、歯科医療関係者が目指す方向性を確認する機会を得たい。そしてその上で歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士の3名のシンポジストにご登壇いただいて、それぞれの実践経験に学び、地域包括ケアの実現に向けた第一歩として、われわれが何を行うべきかの示唆を得たいと思う。特に今回は、事前の会員アンケートや当日会場でのリアルタイムのアンケートを行うことで、活発なディスカッションを展開できればと思う。

[S5-4]管理栄養士が歯科に期待するもの

○前田 佳予子¹ (1. 武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科)

【略歴】

1979年 西九州大学家政学部管理栄養士専攻卒業
1981年 同志社女子大学大学院家政学研究科修士課程修了
1982年 金井病院勤務
2001年 甲子園大学栄養学部専任講師
2003年 甲子園大学栄養学部助教授
2005年 鈴鹿医療科学大学院保健衛生学研究科博士後期課程修了(保健衛生学博士)
2005年 武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科准教授
2010年 武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科教授
一般社団法人日本在宅栄養管理学会理事長

地域包括ケアシステムの一翼を担う在宅医療はかかりつけ医だけでなく歯科医師や歯科衛生士、管理栄養士などの多職種連携・協働によって提供されるのが理想である。特に医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域での暮らしを継続するには、地域包括ケアの鍵となる栄養・食事が重要となる。しかし、在宅療養高齢者の栄養状態の改善は、単に食事内容の見直しだけでは不十分で口腔嚥下機能、身体機能などを総合的に支援する必要がある。在宅医療に関わる職種は食事の摂取量のみ注目するのではなく食形態は適切か否か、口腔状態や嚥下機能に変化はないか等と多面的な視点での介入が求められている。特に在宅での歯科の介入は重要で、地域で口腔に問題がある人を医師が早期に歯科につないで歯科も含めて摂食嚥下評価を行い、きちんと口腔ケアとリハをして栄養管理ができるという地域システム作りを期待したい。